



“ニケヤ1700”から“CA500”へ

小泉 基

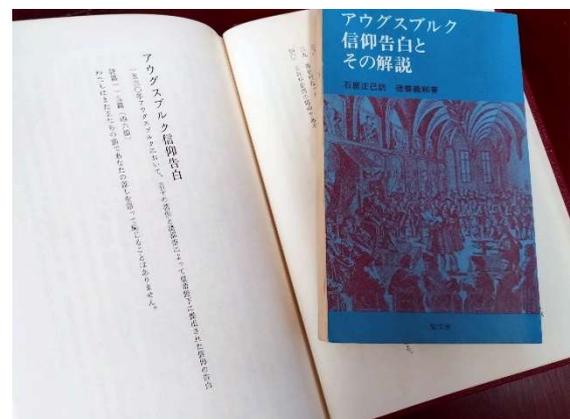
“ニケヤ1700”とは、2025年がニケヤ信条制定から1700年の記念であったことを指し、“CA500”とは、2026年がアウクスブルグ信仰告白500年の記念の年であることを意味します。

信条と聞いてまず思い浮かべるのは、使徒信条かもしれません。しかし使徒信条は、西方教会と呼ばれるカトリックとプロテスタントの教会で生まれ、用いられてきた信条であり、東方教会では馴染みがありません。そのため、東方教会も加盟する世界教会協議会などでは、両教会が共に用いるニケヤ信条(ニケア・コンスタンティノポリス信条)が、エキュメニカルな信条として注目されているのです。

とはいえ、この信条には両教会の対話を妨げる「トゲ」があります。フィリオクエ問題として知られるそれは、聖霊が「父から出る」のか、それとも「父と子から出る」のかという神学論争です。東西分裂後に西方教会がこの箇所を独自に改変したため、両教会が完全に一致した信条を告白できなくなっていました。近年、西方教会の間でも改変前の形を積極的に用いようとする議論が生まれています。そこで日本ルーテル教団との宗教改革記念日の合同礼拝では、ニケヤ信条を「聖霊は父と子から出で」ではなく、「聖霊は父から出で」と、改変前の形で告白しました。これは、教会間の対話を尊重する姿勢を示すものです。札幌でも、カトリック教会とプロテスタント教会の間で、この“ニケヤ1700”の意義を再確認する集いを持たないかと話し合われています。

一方、今年は“CA500”の年です。ルター派がはじめて教会として自らの信仰的立場を公けにした文書であり、6つのルター派信条の根幹をなすものとされるのが、このアウクスブルグ信仰告白です。執筆者メランヒトンは、カトリック教会との対話を成立させようと意図して執筆したため、この文書は対立的ではなく融和的な性格を持っています。

2017年の宗教改革500年の諸行事を通して、カトリック教会との和解が確認されたように、この“CA500”を通して、わたしたちルター派教会としてのアイデンティティを確認しつつ、諸教会との積極的な協働をさらに進めていくことが望まれます。それは神学的な対話にとどまらず、わたしたちが共に暮らす社会の課題をわかちあい、担っていくことにもつながります。“CA500”の年にあたり、信徒にとってはあまり馴染みのないこのアウクスブルグ信仰告白に改めて目を向けることは、意義深いことだと思います。



各教会の近況報告

【札幌教会】

【オルガン奉献礼拝】

札幌教会にとってこの秋いちばんのビッグニュースは、札幌北礼拝堂にパイプオルガンが設置されたことでした。昨年来の検討があり、今春から北礼拝堂で学びと意見交換が始まり、役員会で何度も話しあい、各礼拝堂で説明を行い、購入の可否をめぐるいろいろな意見が出されましたが、8月末に臨時総会を開催して購入の決断に至りました。北礼拝堂奏楽者の購入に向けた祈りがあり、ちょうど良いと思われる中古オルガンの情報提供があるなか、直接のきっかけは、2年前に召された会員のお母さまからの遺贈の申し出でした。ただ、実際にはたくさんの方の祈りがあり、購入資金の多くは教会員の献金で賄われることになりました。

設置作業は10月13日から1週間かけて行われ、販売・据え付け・調整を担当して下さったクライスオルゲルbau社のミヒヤエル・クライスさんの精力的なお働きにより、無事に設置作業が終了しました。現在は、最終的な調音の作業を待っているところですが、それに先駆けて12月7日に教会を挙げてオルガン奉献礼拝が行われました。岡田・小泉両牧師と3つの礼拝堂からの5人の奏楽者が、3台のオルガンを用いてひとつの礼拝をつくりまします。今回は、新たに設置されたパイプオルガンだけでなく、これまで使ってきたチャーチオルガン、この度明治42年製の116歳と判明した貴重な西川社製リードオルガンも用いての礼拝です。町内会長さんや音楽関係者、遺贈者の関係の方々など、多くのお客さんもおいでくださって賑やかな礼拝となりました。これから、その豊かな音色によって北礼拝堂の礼拝を支えるとともに、宣教のためにも力を発揮してくれることでしょう。

【看板の取り替え/札幌と札幌北】

札幌礼拝堂では、2年前から古い看板の取り替えが課題となっていました。これまでの看板は、老朽化している上、「めばえ幼稚園」

については大きくアピールしているものの、ここがルーテル教会であることはイマイチ伝わりにくかったのです。タクシーに乗って「南12西12のルーテル教会」と伝えたときに「はい、あそこの教会ですね」と応えてもらえるようになることが目標です。一昨年に準備したデザイン案は、礼拝堂で再検討をとということになり再考することに。昨年、別の会社にデザインと全体プランを作り直してもらったところ、新しい案は多くの方の賛同を得、樹木の一部伐採、正面ファザードへの投光器の設置とあわせて、9月に一連の工事が行われました。夜には暗く寂しかった教会正面側の通りは明るく照らされ、タクシーの運転手にもすぐにわかってもらえるようなすっきりしたデザインの看板は、なかなか評判も良いようです。

この秋は、札幌北礼拝堂にも新しい看板が立ちました。オルガンの設置の議論とともに、教会の外構環境を整えて、積極的に宣教につながるようにしていこう、という声があがったのです。以前の看板が隣の建物で見えにくくなってしまったこと、駐車場の中央に位置する楓の木の整備に手がかかり、機械除雪も不可能にしていることも課題でした。そこで、一部樹木の伐採と植え替え、古い看板の撤去と新しい看板の設置を行いました。看板の新設のために、自分たちで杭を打ったり、材木を買ってきて塗料を塗ったりと力をあわせて作業できたことも礼拝堂の財産になりました。

(小泉基、岡田薫)



(札幌北/オルガン奉献礼拝)

【秋のワーク&BBQ/札幌】

9月28日の礼拝後、札幌礼拝堂では秋のワーク&BBQが行われました。札幌礼拝堂では婦人会が、新たに食卓と聖研をともにするオリーブの集いに衣替えしています。9月28日はそのスペシャルバージョンとして、礼拝後にみんなで礼拝堂の大そうじをし、そのあとBBQによる親睦会が計画されました。当日は気持ちのよい秋の空の下、大そうじでひと汗流した15人ほどが、教会の庭で美味しいお肉と冷たい飲み物、そして楽しいおしゃべりを楽しみました。



(札幌/BBQ)



(札幌/ミニミニマーケット)

【ミニミニクリスマスマーケット】

11月の第2週は、札幌礼拝堂恒例の子ども祝福礼拝です。教会学校とめばえ幼稚園の子どもたちがたくさんあつまるとともに礼拝を守り、祝福を受け、記念のスプーンを受け取りました。今年はその礼拝の後、教会員さんのご奉仕で、スオミホールを会場にミニミニクリスマスマーケットが開催されました。春先から手芸の材料の提供を呼びかけ、毎月礼拝後に手芸の作業も重ねてきました。さまざま作品を提供して下さる方もあって、素敵なクリスマス小物、手芸品、キャンディーレイ、ゲームコーナーや飲み物の提供など、多彩なコンテンツで大いに盛りあがりました。このクリスマスマーケットは翌週に新札幌と札幌北礼拝堂でも、出張ミニミニクリスマスマーケットとして開催されたほか、札幌礼拝堂のクリスマス祝会でもオープンし、売上は教会学校の子どものために献金され、意義深い集まりとなりました。

【札幌教会のクリスマス】

札幌教会の3つの礼拝堂で、今年も愉しくクリスマスのお祝いがなされました。20日(土)の北礼拝堂では、新しい看板の架台にクリスマスの案内を大きく張り出したことから、「看板を見てきました」、「通りすがりのものです」というまったくの新来者の方々やオルガン奉献礼拝に来られた方なども礼拝においで下さり、フレッシュな顔ぶれのクリスマス礼拝となりました。礼拝後の祝会では、持ち寄りの食卓を中心に、シニアサロンの方々のミュージックベル、金澤英明オールスターズ(井上・松山・野村・小泉)の演奏、誰も置き去りにしない他己紹介などによって楽しいひとときをともにしました。翌日の札幌礼拝堂の祝会は、小泉牧師3択クイズでの楽しいひとときでした。サンドイッチと持ちよりの食卓も豊かで、ミニミニクリスマスマーケットも今年度最後の営業でクリスマス気分を盛り上げてくれました。

新札幌礼拝堂ではこの数年で、ご家族の介護、施設への入所、入院などなさる方が相次ぎ、いつもの席にその方がいないことを痛感する少し寂しいクリスマス礼拝でした。それでも礼拝後の祝会では、十勝のお豆で仕込んだおみそ仕立ての豚汁と持ち寄りのおにぎりなどでお腹を満たし、ビンゴゲームで大盛り上がり。その後、有志によるキャロリング(施設訪問)を行いました。最も高齢化率の高い礼拝堂ですが、奏楽のご奉仕や折に触れて礼拝を共にして下さる方もおられ、見える形・見えない形で教会の仲間たちに励まされ、助けられつつ、この年も礼拝の恵みをわかちあえたことを心から感謝しています。

イブ礼拝は、今年めばえ幼稚園の園生ご家族の参加もあり、赤ちゃんであるイエスさまの誕生を祝うにふさわしい、子どもの声のするキャンドルサービスでした。3つの礼拝堂それぞれにお見舞いや訪問でのキャロリングもあり、めぐまれたひとときを過ごしました。(小泉基、岡田薫)



(新札幌/クリスマス祝会)



(新札幌/ミニミニマーケット)

【帯広教会】

9月6日(土)の主日礼拝後に、つつじが丘霊園にて墓前礼拝が行われました。お天気も良く久しぶりにお会いする方も含め、礼拝後には墓前にて18名で歓談のひと時を過ごすことができました。



(墓前礼拝)

9月20日(土)は牧師夏期休暇の為、信徒礼拝となりました。役員が礼拝当番、司式、説教代読をし、緊張の中にも守られ、いつもと変わりなく礼拝の恵みをわちあいました。

10月に入り、十勝豆の季節がやってきました。全国の教会から帯広教会を覚えて注文が届きます。お豆を通してのお交わりに感謝です。皆で楽しく手際よく、ラベル張りや袋詰め作業が礼拝後や聖書の学びのあとに行われます。そのさなか(11月初旬)集会室裏口部屋の使用していない給油コックの不具合により灯油漏れが発生。ポタッ、ポタッと半日で床の絨毯が灯油まみれになりました。応急処置として給油コックを止めてもらい、床の張り替え工事の業者も見つかり、費用も思ったほど掛からなくてすみました。まさに、主の山に備えあり。

折に触れて会員訪問に牧師と有志が代わり合って伺っています。12月17日(水)、2チームに分かれて釧路の嶋田さん(91歳)、池田の山田さん(99歳)にお会いしてきました。クリスマスの讃美歌を歌うとお二人とも思い出して、元気な声と一緒に讃美することができました。嬉しく、元気をもらいました。

12月20日(土)の礼拝には、教会員が届けたクリスマスの案内を見て25~30年? ぶりの方がみえて嬉しく驚きました。クリスマス祝会后には、午後2時30分から浦幌集会以て礼拝と祝会が行われました。12月24日(水)はクリスマス・キャンドルライトサービスが行われ、久しぶりの方や初めての方とも礼拝を共にし、ささやかなお祝い会を共にすることができ、感謝です。

2026年度の総会は1月31日(土)です。帯広は2027年で宣教50年になります。小さな群れですが、神さまが一人一人を祝福してくださり用いてくださるよう祈っています。(大金よし子)



(クリスマス礼拝)



【函館教会】

8月24日、講壇交換にて岡田牧師による主日礼拝が行われました。再会を喜ぶ教会員や初めましての教会員も多く、礼拝後の茶話会ではいろいろなお話をし、とても和やかな交わりの時間を過ごしました。

9月21日、バザーを開催。準備の段階から多くの方々に献品を頂き、値付けや品物の整理等を教会員で行いました。そして当日はたくさんの地域の方々が来て下さり、今年も大盛況で終えることが出来ました。

11月16日、子ども祝福式にて教会員以外にもMSCメンバーのお子さんが参加されました。一人一人が神様に愛された存在であることを河田牧師からわかりやすくお話され、キャンディーレイが手渡されました。

11月末にはアドベントの飾りつけを行い、12月7日には子どもアドベント企画礼拝。初めての試みでしたが、クリスマスのこと、何故イエス様がこの世に生まれたのか等が、ゲームや賛美歌を通じて伝えられました。

12月14日の主日礼拝ではMSCによる賛美奉仕、そして午後からミニコンサートが開催されました。雨模様の中、多くの方々が足を運んでくれ、恵みの多い時間となりました。

21日にはクリスマス主日礼拝と祝会がありました。野の花の会で食事準備がされましたが、その際にガス釜にトラブルが発生！神様の助けと教会員の機転と働きで何とかアクシデントを乗り越え、無事に皆で



(バザー準備)

美味しく頂きました。クイズやクリスマスビンゴをし、最後には賛美歌も歌い、豊かで喜びに溢れた時間を過ごしました。

23日夜に“9つの聖書日課とキャロル”をアレンジした燭火礼拝を開催。聖書朗読は教会員とMSCメンバーが担い、MSCの賛美奉仕もありました。各自ろうそくに火を灯し、クリスマス物語を読み、そして歌い、河田牧師の説教にて神様がイエス様という光を、身分の低い羊飼ひ、つまりこの世の支配で虐げられていた人々に初めから届けられていたこと、その光こそ暗闇の内にいる全ての人を輝き照らすものであるとクリスマスの喜び、救い主のご降誕の喜びに与りました。

1年を振り返り、課題が多い函館教会ではありますが、神様に与えられたことを協力して行い、それらが恵みとなって信仰の励みとなっていることは確かです。特に河田牧師の働きは大きく、神様を知ってもらう為にバザーでは教会入口に立って教会パンフレットを配り、子どもたちの為に交流会を企画する等宣教に力を入れています。感謝です。

神様の光に多くの方が気づくことを祈り、光を仰ぎみて過ごしていきたいと思います。

(岩崎明子)



(子どもアドベント礼拝)

(MSCミニコンサート)



【恵み野教会】

恵み野教会での秋の宣教はバザーから始まりました。一昨年と同じ9月23日(火/休)に開催するため、教会のみんなで夏から準備を始め、週ごとに、そして三日前からスパートをかけて取り組みました。人手が減っている中で、例年販売していた焼き鳥はできなくなってしまいました。来場の皆様が楽しそうにされていて、力をもらいました。帰り際に「いいものが見つかりましたか」と尋ねると、嬉しそうに買ったものを紹介してくださるのが私の楽しみでした。一番人気はやっぱり名物のニンジンケーキで、開始から1時間しないで完売するほどの売れ行きでした。献品や当日のお手伝い、またご来場くださった道内の教会の皆様にも感謝いたします。今年も行う予定ですので、ぜひ覚えてお祈りください。



(バザー)

バザーを終えると、教会は宗教改革礼拝や全聖徒主日礼拝などの特別礼拝に向かっていきますが、恵み野教会ではその前に恵み深い出来事が与えられました。教会員のお連れ合いであります北英夫さんの受洗です。洗礼式は10月9日に病室の中で行われ、掠れながらも確かな声で「ありがとうございます」と伝えてくださった言葉が耳に残っています。その後、英夫さんは19日に息を引き取られましたが、洗礼へと招いてくださった神様がみ国へ迎え入れてくださったのだと信じて、祈り送ること

ができました。そのような中での全聖徒主日でしたので、皆の心の中の祈りが合わさるように感じる礼拝となりました。ご家族の慰めをこれからも祈って参ります。

さて、イエス様の与えてくださった救いの喜びを伝えるため、クリスマスの企画や礼拝にも力が入ります。12月6日には恒例になりつつあるクリスマスフェスタが行われ、地域の方々が教会に集まってくださいました。クリスマスのメッセージに共に与り、音楽を通して喜びを分かち合うことができました。そして20日はクリスマス主日です。持ち寄りのメニューで食卓を囲み、教会の方の演奏などを聴いて、美味しい楽しい懇談会の時を過ごすことができました。

24日のイブにはキャンドルを囲んで、皆で喜びと平安に満ちた礼拝を守りました。たくさん歌って、たくさん聖書を聞く礼拝でした。新しい方が来られたり、初めて聖書朗読の奉仕をされた方がいたり、イエス様の宣教の業が働いていることを感じました。

互いに祈り合い、神様に委ねていくことのうちにこれからも恵み野教会らしく歩んでいきたいと願っています。(河田礼生)

(キャンドル礼拝)



(クリスマス礼拝)



【宗教改革日合同礼拝】

例年、北海道のルーテル2教派による札幌圏での合同礼拝として行われてきた宗教改革日合同礼拝ですが、昨年はオンラインが普及したこともあり、JELC側は、北海道特別教区が主催する形で行われました。また今回は特に、説教者として日本聖公会北海道教区の主教マリア・グレイス笹森田鶴師をお招きしたことで、エキュメニカルな礼拝となりました。笹森師のメッセージは、立場の違いによる対立が鮮明化する教会内において、それでも対話による交わりと一致へとねばり強くあゆんでいく教会の希望を語る、励ましに満ちたメッセージでした。不安と疑心暗鬼が積み重なっていくこの社会にあって、社会は強いリーダーシップを求めがちですが、教会はそのなかで

踏みとどまり、小さな声を聴き続ける共同体でなければならない、との強調が胸に響きました。

また、ニケヤ信条1700年という記念すべき年において、北海道にあるルーテル2派の協議のもとで、ニケヤ信条の一節を、あえて「聖霊は父から出て」という形でともに告白されたことも、教会にエキュメニカルな姿勢を示す、歴史的なことであつたと思います。

会場となったNRK札幌中央ルーテル教会には、ルーテル両教会と関係幼稚園、聖公会やカトリック、またネットで案内を見たというノンクリスチャンの方もおいでくださり、ともに礼拝をひとつにする喜びをわかちあう夜となりました。

(小泉基)



【秋の修養会、再計画！4月29日(水/休)10時半から、札幌北礼拝堂にて】

まずはじめに11月2日、3日に予定されておりました「秋の修養会」が延期となってしまったことをお詫び申し上げます。私もわくわくと準備をしておりましたので、残念に思っています。

しかし、教区教師会と常議員会の協議により、修養会の再計画が進められています。延期先の日程は4月29日(水/休)で、会場は札幌教会札幌北礼拝堂となります。開始時間は10時半を予定しております。この記事を読みましたら、ぜひすぐにスケジュール帳を開いて「修養会」とご記入ください。改めて、それぞれの教会でも案内をいたしますので続けてご確認ください。また道央での開催のため、遠方の教会からも参加できる方法を現在検討しているところです。

内容は当初の予定通り「式文と奏楽」です。前半

ではルーテル教会における式文礼拝についての私からの講演と、ルーテル学院大学オルガニストの湯口依子先生による奏楽についての講演が、昼食の交わりを挟んで後半には湯口先生のミニコンサートと奏楽者のためのレッスンが予定されています。

ルーテル教会が大事にしている式文礼拝の意義を学ぶことで、普段の礼拝から恵みを受け取っていくための力が養われていきます。また私たちの感謝と応答の声であるところの賛美を支えているのが奏楽です。奏楽者がどのように心を尽くして、礼拝奉仕に向き合っているのかを学ぶこともすべてのキリスト者にとって他人事ではありません。精一杯準備してまいりますので、ぜひ奮ってご参加下さい。(河田礼生)

ギャラリー



(札幌/新しい看板)



(札幌北/看板の設置作業)



(新札幌/晴天に映える礼拝堂)



(函館/子どもアドベント礼拝)



(帯広/夜のスタンドグラス)



(恵み野/クリスマスの飾り)

教勢動向

(2025年9月-2025年12月)

札幌教会

受洗: 吉田澄子さん(9/22)

召天: 吉田澄子さん(12/9) 松浦多美さん(召天日確認中)

恵み野教会

受洗: 北英夫さん(10/9)

召天: 北英夫さん(10/19)